

中学歴史プリント（書き取り）

飛鳥時代

名前

得点

/24

- 問1 壬申の乱で大友皇子と皇位を争った、天智天皇の弟は誰？
- 問2 聖徳太子が中心となって栄えた、最初の本格的な仏教文化を何という？
- 問3 聖徳太子が制定した憲法において、仏教の尊重とともに取り入れられた教えを何という？
- 問4 中国の隋や唐の制度を手本として、古代日本で編纂・施行された国家の基本となる制度を何という？
- 問5 日本が隋や唐の国家体制を手本にして、後に整えていった法典に基づく統治のしくみを何という？
- 問6 聖徳太子が制定し、役人が従うべき命令を説いた憲法を何という？
- 問7 663年、日本軍が唐・新羅の連合軍に敗れ、百済の復興に失敗した戦いを何という？
- 問8 663年、日本が朝鮮半島での拠点を維持するために兵を送り、唐・新羅連合軍と戦った国を何という？
- 問9 聖徳太子や蘇我氏を中心となって栄えた、日本で最初の本格的な仏教に基づく文化を何という？
- 問10 672年に天智天皇の死後、後継をめぐって起きた内乱を何という？
- 問11 壬申の乱で敗れた大友皇子の父であり、大津宮へ遷都した天皇は誰？
- 問12 7世紀前半に栄えた、日本で最初の本格的な仏教文化を何という？
- 問13 大津宮への遷都などを通じて基礎が築かれた、天皇中心の法に基づく国家を何という？
- 問14 推古天皇の時代、中国へ進んだ制度や文化を学ぶために派遣された使節を何という？
- 問15 天皇に権力を集中させ、全国を統一的に支配する国づくりを目指す体制を何という？
- 問16 飛鳥時代、仏教の採用をめぐって蘇我氏と激しく対立した有力豪族を何という？
- 問17 飛鳥時代に、推古天皇の摂政として仏教を広め、法隆寺などを建立した人物は誰？
- 問18 唐や新羅からの侵攻に備えて、九州北部の防衛のために配置された兵士を何という？
- 問19 大津宮で政治を行った天智天皇が作成した、日本で最初の全国的な戸籍を何という？
- 問20 聖徳太子が、中国の隋から進んだ政治制度や文化を学ばせるために派遣した人物は誰？
- 問21 白村江の戦いのあと、九州の防衛や外交の拠点として置かれた役所を何という？
- 問22 聖徳太子が役人の心得として、仏教の「仏・法・僧」を敬うことを記した文書を何という？
- 問23 奈良県の法隆寺などが代表する、現在世界で最も古い建物群のことを何という？
- 問24 7世紀後半、壬申の乱で勝利し、天皇を中心とした国づくりを強力に進めた天皇は誰？

答え合わせ・解説

問1	答え 大海人皇子	大海人皇子は672年の壬申の乱において、地方豪族の協力を得て大友皇子を倒しました。この勝利により、古代日本において天皇の権威を確立する重要な役割を果たしました。
問2	答え 飛鳥文化	飛鳥文化は、法隆寺などの寺院建築や、釈迦三尊像のような仏像に見られる彫刻に特徴があります。これらは朝鮮半島を経由して伝えられた大陸の文化の影響を強く受けており、当時の人々の信仰心や芸術的な感性が結実したものです。
問3	答え 儒教	儒教は、孔子を祖とする中国の思想で、礼儀や孝行、そして君臣関係といった秩序を何よりも重んじます。聖徳太子が制定した十七条の憲法では、仏教を尊ぶ姿勢とともに、この儒教的な上下関係の秩序を取り入れることで、役人たちが天皇に仕えるべき規範を示しました。
問4	答え 律令制度	「律」は今の刑法、「令」は今の行政法にあたるもので、これらを組み合わせて国を治める体制を律令制度といいます。この制度により、中央政府が地方を支配し、すべての国民を戸籍で管理して税や労役を課するという中央集権的な国家体制が築かれました。
問5	答え 律令制度	律令制度とは、刑罰を定めた「律」と、行政や税の決まりである「令」からなる法体系のことです。飛鳥時代の聖徳太子の時代から準備が始まり、大陸の制度を参考にしながら、天皇を頂点とした官僚的な政治システムを構築しました。これにより全国の土地や人々を直接管理することが可能となりました。
問6	答え 十七条の憲法	604年に聖徳太子によって制定された「十七条の憲法」は、役人が守るべき道徳や心構えを説いたものです。特に「和をもって貴しとなす」という言葉が有名で、天皇への服従や、仏教を重んじることを説いています。
問7	答え 白村江の戦い	663年、現在の韓国付近にある白村江（はくすきのえ）という場所で、日本軍は唐と新羅の連合軍と激突しました。しかし、最新の戦術を持つ連合軍に日本は完敗しました。
問8	答え 百濟	663年、唐と新羅が協力して百済を滅ぼそうとした際、日本は百済を助けるために軍を送りました。しかし、白村江の戦いで唐・新羅連合軍に大敗し、朝鮮半島における政治的な拠点を完全に失うことになりました。
問9	答え 仏教文化	仏教文化は、聖徳太子や蘇我氏ら有力豪族によって深く信仰され、寺院の建立が活発になりました。中国の南北朝時代や朝鮮半島の文化の影響を強く受けており、大陸風の優美な建築や彫刻が特徴です。法隆寺などの寺院が代表的です。
問10	答え 壬申の乱	672年に勃発したこの内乱は「壬申の乱」と呼ばれます。地方の豪族を味方につけた大海人皇子側が勝利し、大友皇子は敗北して自害しました。これは、当時の有力な皇族同士による最大規模の内乱となりました。
問11	答え 天智天皇	天智天皇は、唐や新羅の勢力に備えるために都を近江大津宮へ移し、強力な国家建設を推進しました。特に、日本で初めて全国的な戸籍である「庚午年籍」を作成したことは、国が国民を把握し、税を確実に徴収するための非常に重要な転換点となりました。
問12	答え 飛鳥文化	「飛鳥文化」は法隆寺の釈迦三尊像などに代表される、仏教中心の文化です。建築、彫刻、絵画などにおいて大陸の様式が積極的に取り入れられ、高度な技術が伝えられました。
問13	答え 律令国家	律令国家とは、国の決まりである「律」と「令」に基づいて、天皇が全国を統治する国家の形です。都に政治の中心を置き、官僚が整備され、国民は公地公民（土地と人民は天皇のもの）という原則のもとで戸籍に登録されました。これにより、日本は法治主義的な性格を強めた国へと生まれ変わりました。
問14	答え 遣隋使	607年に小野妹子らが派遣されました。彼らは隋の皇帝に国書を届けて対等な外交関係を求めるとともに、仏教の教義や政治の仕組みを学び帰国しました。これにより日本には大陸の新しい文化が急速に流入しました。
問15	答え 中央集権国家	中央集権国家とは、天皇や朝廷が中心となって、全国の土地や人民を管理し、法律に基づいて統治を行う体制のことです。冠位十二階や公地公民といった制度は、まさにこの体制を実現するための手段でした。
問16	答え 物部氏	物部氏は日本古来の信仰を守る立場から、蘇我氏が推し進める仏教の導入に強く反対しました。両者は政治的、宗教的に激しく対立しましたが、最終的に蘇我氏が勝利したことで、日本における仏教の公認が決定しました。
問17	答え 聖徳太子	聖徳太子は、推古天皇の摂政として、冠位十二階や十七条の憲法を制定し、能力重視の政治や天皇を敬う思想を広めました。また、仏教を深く信仰し、法隆寺や四天王寺を建立するなど、宗教面からも国の平和を祈願しました。
問18	答え 防人	政府は国防を最優先の課題とし、九州の北部に「防人」を配置して警備を強化しました。また、九州各地や瀬戸内海沿岸には水城や山城を築き、万が一の侵攻に備える軍事施設を整えました。これらの防人は、東国などから選ばれた農民が任期を終えて交代で任務にあたるものでした。
問19	答え 庚午年籍	670年（庚午の年）に作成された「庚午年籍」は、日本で初めて全国規模で作成された戸籍です。これにより、政府は誰がどこに住んでいるかを把握し、兵役や租税を課するための基礎資料としました。この正確な戸籍の作成が、後の班田収授法の実施へとつながる重要な足がかりとなりました。
問20	答え 小野妹子	小野妹子は、聖徳太子の命令を受けて遣隋使として隋の都へ派遣されました。当時の隋の皇帝である煬帝に、天皇の親書（「日出づる処の天子、書を日没する処の天子に致す」で始まるもの）を手渡し、対等な関係を要求しました。彼はこの命がけの外交を通じ、大陸の優れた文化や法律制度を日本へ持ち帰りました。
問21	答え 大宰府	大宰府は、九州地方（特に博多周辺）を管轄する行政機関です。軍事防衛だけでなく、外国との外交交渉を行う窓口としての役割も持ちました。周囲には「水城」という土木施設を築き、守りを固めたとされています。
問22	答え 十七条の憲法	604年に制定されました。役人が守るべき心構えを全17条で記しており、その第2条には「三宝（仏・法・僧）を敬うこと」が説かれています。儒教的な考え方や仏教の教えに基づき、和を大切にすることなどを強調しました。
問23	答え 木造建築	法隆寺の西院伽藍は、現存する世界最古の木造建築物群として有名です。木材の特性を生かした緻密な接合技術や、金堂・五重塔に見られる建築様式は、当時の高度な土木・建築技術を今に伝えています。
問24	答え 天武天皇	天武天皇は飛鳥浄御原宮に都を定め、天皇を頂点とする専制的な政治体制を確立しました。また、歴史書である『日本書紀』の編纂を命じ、富本銭の鋳造を行うなど、国の基盤整備に力を注ぎました。